

ジュラ & サヴォワ



Jura & Savoie

栽培面積
1800ha
年間生産量
8万hl
生産比率
赤・ロゼ40%
白60%

ジュラにおけるブルサー、トルソー、サヴァニヤン。そしてサヴォワにおけるモンドゥーズ、ジャケール、ルーセット、グリーンジェ等々。ここは珍しい地場品種が多い。ワインのタイプも、ヴァン・ド・バイユ、ヴァン・ジョース、マクヴァン、そして発泡ワインと、脇道に逸れがちだ。

だから日本のワインファンにとっては、知識の上だけに存在しているような産地だ。現時点ではジュラ紀前期の石灰岩土壌の急斜面に植えられたサヴァニヤン品種のワイン、シャトー・シャロンの偉大さを説いても、誰も聞く耳をもたない。

そこで、著名品種のワインを推薦する。ジュラ北部のシャルドネと、サヴォワ南部のルーサヌスである。それぞれ、コート・ドールとコート・ロティと同緯度である。

緯度は同じとはいえ、土壌は違う。ジュラは黒色粘土、サヴォワは粘土石灰質というリッチな土壌だが、山間にあって気候条件に劣る（特に雨量は日本並みに多い）分、ワインの肉付きを、太陽からではなく土から得る必要があるからだ。ワインはどちらも、豊満でいて骨格のしっかりとした、メリハリのある味わいである。

Arbois
La Mailloche
Domaine Stéphane Tissot



アルボワ
ラ・マイヨーシュ
ドメーヌ・
ステファン・ティソ

ジュラでは栽培面積の50%をシャルドネが占め、かつてブルゴーニュ公国の一部であった歴史を思い起こさせる。ブルゴーニュと同じく石灰岩土壌も多いが、シャルドネとの組み合わせでは硬せて固いワインとなる。黒色

粘土質土壌のこのワインは、ジュラならではのスモーキーなミネラルの香りと堅牢な構造だが、同時に見事なグラと立体感があり、個性的かつ普遍的なバランス。ブドウは有機栽培。一部ビオダイナミ。

Chignin-Bergeron
Grand Orgue
Domaine Louis Magnin



シニャン・ベルジェロン
グラン・オルグ
ドメーヌ・
レイ・マニヤン

サヴォワには19のクリュが存在する。そこでは特定の品種のみでワインを造るか、ブレンドの大半を占めねばならない。中でも最も有名なクリュが、ルーサヌス100%（この品種の栽培面積はサヴォワ全体のたった2%）のシニャン・ベルジェロンである。イゼール川の谷間にあり、粘土石灰質の南向きの斜面で、気温は高い。ローヌと比較して、豊満さは似るが、酸はより力強く、ミネラル分が顕著で、香りも繊細。